

今どきの14歳の本音とは?

NHK「中学生日記」の 制作者に聞く

怖いのは『うざい、と思われ 友達グループに入れないこと

NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。



台本。ドラマには228人の中学生が交代で登場する



「中学生日記」はNHK名古屋放送局で制作。生徒役は現役中学生を公募し、現実と同じ学年、本名で出演しています。中学生シリーズは昭和37年の「中学生次郎」から数えて48年目、「中学生日記」は昭和47年からスタートしました。放映はNHK教育で土曜19時15分～19時45分。



ドラマの中にだけ存在する名古屋市立東桜中学校を舞台に、中学生のリアルな日常を描く「中学生日記」。生徒役の228人は、番組を制作するNHK名古屋放送局近郊に住む普通の中学生です。

「中学生日記」に原作や脚本はなく、毎回オリジナルです。毎週、子どもたちにアンケートや取材を行うことから始まり、今一体どんな気分なのか、身の回りでどんなことが起こり、それに対しても自分はどう感じるかなど、本音を徹底的に聞き出していく番組を作っています」と田熊邦光さん。子どもたちを集め、とにかく話を聞く。気になることは、理解できるまで質問攻めにすることも度々で、そこから見えてくる子どもたちの世界があると言います。

「普段はおとなしいのに、プロフを書き込む時は攻撃的になる子が多い」と田熊邦光さん。子どもたちを集めて、とにかく話を聞く。気になることは、理解できるまで質問攻めにすることも度々で、そこから見えてくる子どもたちの世界があると言います。

悩みや関心事は学年ごとに特徴があるそうで、1年生は女子に仲間作りの不安が多く、男子は体の変化。2年生は去年の反省をふまえ、キヤラを変えなきや今年はこうしたいと考える子が特に女子に多いそうです。3年生になると受験や将来のことでの頭は一杯に…。「全年年に言えるのは、友達付き合いはグループに所属することで成り立つと考えていて、特に女子はグループの中にいるために必死です。だから番組も、グループと個の関係をテーマにしたものが多くなります。教師との関係を描く話が少ないとよく言われるの

ですね。恥ずかしいことだと思ってる。知らないことで妊娠中絶などの問題も出てくるので、正しい知識を伝えなくてはと痛感しています」とメンバーアン木絵美さん。

友達関係やいじめなど、心の問題につけることは難しい。辛い気持ちをなかなか言葉にできない相談者に対し、「とにかく気持ちに寄り添い話を聞きます。自分の考えだけに縛られて行きづまっている子には、悩みの種になっている人の気持ちを考ええてみようと促し、状況を客観的に捉えられるようにします。自分で解決策を見つけられるように支えていくことが私たちの役目です」。

近年の相談で気になるのがメールに関する悩み。「返信が来なくてけんかになつた、着信が気になり寝られない、悪口を広められたなどの相談がありました。友達関係に携帯メールは密接に関わっています」と谷川由夏さん。「謝るときもメールで済ませている。絵文字で感情を伝え、『生』をテーマに「生」を考える講座も



NHK名古屋放送局
「中学生日記」
チーフ・プロデューサー
田熊 邦光(たぐまくにみつ)さん

実施しています。中学では男女交际やメールの使い方などについて、高校では性感染症の予防などが主な題材になります。知識や倫理の押付けでなく、実生活で知識をどう生かしていくべきかを、寸劇やワーキショップを活用して楽しく伝えていきます。たとえば大好きな彼から春期の男女が直面する場面を想定し、仲間と交代で男女の役を演じることで異性の気持ちを知り、その時自分はどう行動するかなどを考えてていきます。

「もし妊娠をしたら、将来の夢が実現できない人もいるでしょう。妊娠手にどう伝え、どう行動するか。生きることは自己決定、自己選択の連続です。どう行動したら自分が幸せになれるか、考えてほしいです」とりプロダクティブヘルス研究会の光本恵子さん。自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちを聞き、話し合って物事を決めていくことが大切だと思います。「びあっ子」には同世代の仲間として、1人でも多くの子どもたちにそのことを伝えてほしい」と期待して



ピアカウンセラーに聞く

携帯メールで友達と会話!? 自分の気持ちをもっと口にして

子どもたちからの相談は電話、Eメール、来所で、JR沼津駅南口の「パレット」内にある思春期健康相談室「ピアーズポケット」で受け付けています。開設は水曜13時～17時、土曜・日曜10時～17時。

☎055(952)7530
E-mail shishunki@poem.ocn.ne.jp

「ピア」は仲間の意味。ピアカウンセラー「ぴあっ子」は教師や看護師などの専門職が集まるNPO法人リプロダクティブルス研究会の会員に見守られながら、思春期の若者からの相談に応じています。

平成20年度の相談件数は3770件。相談内容をみると、男女ともに上位を占めたのは恋愛や友達関係や包茎など性や体の悩みについて、女子からは人間関係や月経についての相談も多く寄せられています。

「性に関することは、授業で学び、とした知識を持っている子が少ない情報もあふれているのに、きちんと

「ピア」は仲間の意味。ピアカウンセラー「ぴあっ子」は教師や看護師などの専門職が集まるNPO法人リプロダクティブルス研究会の会員に見守られながら、思春期の若者からの相談に応じています。

平成20年度の相談件数は3770件。相談内容をみると、男女ともに上位を占めたのは恋愛や友達関係や包茎など性や体の悩みについて、女子からは人間関係や月経についての相談も多く寄せられています。

「性に関することは、授業で学び、とした知識を持っている子が少ない

「ピア」は仲間の意味。ピアカウンセラー「ぴあっ子」は教師や看護師などの専門職が集まるNPO法人リプロダクティブルス研究会の会員に見守られながら、思春期の若者からの相談に応じています。

平成20年度の相談件数は3770件。相談内容をみると、男女ともに上位を占めたのは恋愛や友達関係や包茎など性や体の悩みについて、女子からは人間関係や月経についての相談も多く寄せられています。

「性に関することは、授業で学び、とした知識を持っている子が少ない



講座は手作り教材を使い、楽しく進められる

「性に関することは、授業で学び、とした知識を持っている子が少ない



「ぴあっ子」のメンバー(70人が活動中)

る。大げさに書くとみんなが注目してくれるから、どんどん違う人間を演じてしまうそうです。学校へ行かなくなつた子に不安があるか聞いたら、朝起きて今日一日何をしようと思う瞬間だという。大人が考へがちな将来に対する不安やないん

です。子どもたちと話していると、何かひつかかる一言というのがあって、そこを見逃さないようにキヤッчи掘り下げて聞いていくことで出てくる話がたくさんあります」。子どもたちは親や教師には話さない心の内を、驚くほど素直に語ってくれると言います。それらを題材に台本が書かれ、子どもたちはカメラの前で自分自身に向き合う作業をしながら、登場人物に気持ちを置き換えて演じていきます。

しかしシビアな現実に翻弄されているばかりではありません。「以前、トーク番組の収録中、いじめられた体験を堂々と話した子がいます。『辛い記憶だけれど、その体験を話すことで誰かが救われ、いい方向に変われるのなら何でも言います』と。子どもってすごいなと思いました。

放映されれば、嫌なことを言われるかも知れないのに。こんな人の心の前で自分自身に向き合う作業をした後、登場人物に気持ちを置き換えて演じています。

ですが、子どもたちから教師の話を出でこないんです。関係が希薄になつてゐるのかもしれませんね」。

また、特有の「あきらめ感」があると言います。「クラスで私は上の方、下の方とか言うんですが、成績ではあります。何かのきっかけでグループから外され、いじめられるのをすごく恐怖を感じていて、その状況をしようとすると、下の方になつてしまつていて」。

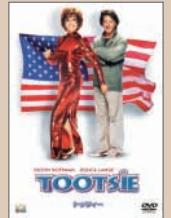
下の方になつてしまつていて、その状況をしようがないと受け入れてしまつていて、その状況をしようがないと受け入れてしまつていて」。

そのままの「あきらめ感」があると言います。「クラスで私は上の方、下の方とか言うんですが、成績ではあります。何かのきっかけでグループから外され、いじめられるのをすごく恐怖と感じていて、その状況をしようがないと受け入れてしまつていて」。

ですが、子どもたちから教師の話を出でこないんです。関係が希薄になつてゐるのかもしれませんね」。

また、特有の「あきらめ感」があると言います。「クラスで私は上の方、下の方とか言うんですが、成績ではあります。何かのきっかけでグループから外され、いじめられるのをすごく恐怖と感じていて、その状況をしようがないと受け入れてしまつていて」。

そのままの「あきらめ感」があると言います。「クラスで私は上の方、下の方とか言うんですが、成績ではあります。何かのきっかけでグループから外され、いじめられるのをすごく恐怖と



静岡英和学院大学
人間社会学科 教授
鬼塚大輔さん

トゥッキー
監督 シドニー・ボラック
販売元 ソニー・ピクチャーズ
エンターテインメント

「温故知新」という言葉あり。「男女の役割」ってやつを、もう一度考えてみようよ、といふ内容の映画はたくさんあるし、最近も作られているけれど、やっぱりこの分野では30年近く前に作られた「トゥッキー」(1982年)を越えるものはないのでは?

売れない俳優ダスティン・ホフマンがやけを起こし、女装して昼メロのオーディションに出かけたら見事に合格。女優として大成功をおさめるという話。名作「お熱いのがお好き」(1959年)これも「トゥッキー」同様、アメリカ映画協会選出の「アメリカ映画ベスト100」に選ばれている)を始めとする、いわゆる"女装"喜劇というのは、ハリウッドの伝統だ。だが、「トゥッキー」が今でも古びていない、今觀ても新鮮なのは、"女性"になった男性主人公が、性差に関する差別を経験することで、自分自身が生まれ変わっていく過程が、きちんと描かれているからである。しかも、たっぷり笑わせてくれます。



オンナ-rashisa入門(笑)
小倉千加子著 理論社

テレビも学校も家の中も、世の中は「女の子らしく」や「女の子のクセに」でいっぱい。面と向かって言われると、なんだかムッと腹が立ったり、逆に心がよんぱりしてしまったり…、あなたはこんな経験をしたことはありませんか?

この本は、「オンナ-rashisa」に隠された秘密のルールを考えることで、あなたのムッとした気持ちや、よんぱりした心の理由を解き明かしてくれます。「自分だけの好き」を持つことの大切さと、それを見つけ育てる勇気、うつうしい世間をヒラリとかわす知恵を传授してくれます。

窮屈な“オンナ-rashisa”に悩む女子だけでなく、「オトコなんだから」にうんざりしている男子にもオススメの1冊です。



世界人権宣言
谷川俊太郎著、
アムネスティインターナショナル日本支部著
金の星社

「世界人権宣言」を知っていますか? 戦争の悲劇を繰り返さないため、1948年12月10日に国連で採択されたものです。30条にわたり、みんなで守りたい人権のことが書かれています。ただ、その内容は大人が読んでも難しい言葉が並んでいます。世界中の多くの人々に、読んで理解してもらいたいことに。その「世界人権宣言」を、詩人の谷川俊太郎さんが絵本にしてくれました。

この本は、「オンナ-rashisa」に隠された秘密のルールを考えることで、あなたのムッとした気持ちや、よんぱりした心の理由を解き明かしてくれます。「自分だけの好き」を持つことの大切さと、それを見つけ育てる勇気、うつうしい世間をヒラリとかわす知恵を伝授してくれます。

窮屈な“オンナ-rashisa”に悩む女子だけでなく、「オトコなんだから」にうんざりしている男子にもオススメの1冊です。



「男女共同参画」はじめの一歩! Books & Cinemas



崖の上のポニョ
監督 宮崎駿
販売元 ウォルトディズニー
スタジオホームエンターテイメント

ポニョは魚の子。ふとしたことから宗介に命を救われ、人間の子になって一緒に暮らしたくなつたポニョは、魔法で津波を引き起こし、波の先端に乗つて、町じゅうを呑み込みながら宗介とその母リサのもとに辿り着く…。

「ボーイ・ミーツ・ガール」の枠に、きれいに収まつてしまいそうなチャーミングなアニメには、しかし、それを裏切るような楽しい謎や仕掛けがいっぱい。宗介の父の船乗り耕一は、なぜ作中、一度も陸に上がってこないので? 崖の上には戻らぬ夫を待つりサ、海の中にはグランマンマーレと呼ばれる金色の大魚を妻に持つポニョの父フジモト。そして、宗介の誓いの言葉——「おさかなのポニョも、半魚人のポニョも、人間のポニョも、みんなスキだよ」は、「ポニョ」という存在を、いったんく魚>とく半魚人>とく人間>に切り分けながら再統合しているだろう。

女と男、自然と人間の間に作り出されてしまった亀裂やズレを、ジブリのアニメは美しくも哀しく、我々に問いかけてやまない。



知っていますか?
ジェンダーと人権
一問一答
船橋邦子著
解放出版社



おんぶはこりごり
アンソニー・ブラウン著
平凡社

「男らしくしない」とか「女らしく」と周囲から言われることで、不自由な思いをしたことがありませんか? そもそも、「男らしさ」「女らしさ」とは何でしょうか? 『知っていますか? ジェンダーと人権 一問一答』は、男女共同参画について、中学生にも分かりやすい、やさしい言葉で説明されている本です。性別にかかわらず、自分らしく、色々な可能性に挑戦できる社会であつてほしい…。

そもそも一冊、これから社会に出て活躍する14歳のみなさんに『おんぶはこりごり』に登場するピゴットさんのおうちを紹介します。ピゴットさんは幸せな4人家族。でも、パパや子どもたちの世話に大忙しのママは、うんざりして、とうとう家を出てしまう。ママのいなくなつた家は、まるでブタ小屋のよう。そして残されたパパと子どもたちはいつの間にかブタの姿に…。この家族がどうなつてしまふのかは、読んでからのお楽しみです。



中学生の性差意識は、親世代の現実を物語っている



静岡文化芸術大学
文化政策学部
文化政策学科
森 俊太 教授

私は中学生の親世代に近いのですが、ワークショップ「マンガの固定的性別役割分担」に満ち溢れていたことに改めて気がつきました。女性のキャラクターがほとんど記憶にないマンガも多く、主役は全て男、女はアシスタント的な「お姉さん」役か、お母さんというきまりきった描き方でした。そのころのマンガからは、ワークショップのマンガに登場する主人公達は想像することすぐれません。

しかし、このワークショップで使われたマンガは、主人公の性別がわかりにくかつたことからわかるように、かなりユニークなキャラクター設定です。マンガとは本来、現実の世界とは異なる「夢」の世界を描くことが多いのです。つまり、現実の性別役割分担は、このワークショップのマンガ

では小中学生の時期に、子どもたちは主に誰を、何を参考にして自分たちの性別意識を作っているのでしょうか。小中学生に身近な人は、家族、学校の友人や先生です。その中でも通常、親が最も大きな影響を持つています。つまり、この調査結果には、小中学生の親の世代の現実が現れているのです。女性についての結果は、子どもから見た、主に母親の家事育児や仕事との両立の様子の反映であり、男性についての結果は、父親の仕事や家庭での様子の反映です。具体的には、「女

は家事が大変そう」、「男は仕事がきつそう」、「男の人は、色々な責任があつて大変そう」などの意見は、ほぼ、親の姿を見ての切前で変化しないもの、「異なるものは、間違いで、変だ」という意識が強くあるのです。実際、6人の中学生の発言やアンケート調査結果からも、14歳の段階で「固定的性別役割分担」意識が形成されていることが分かりました。14歳前後、つまり中学生段階でこの意識があるということは、その前の発達段階で、すでに意識の土台が作られているということです。

では小中学生の時期に、子どもたちは主に誰を、何を参考にして自分たちの性別意識を作っているのでしょうか。小中学生に身近な人は、家族、学校の友人や先生です。その中でも通常、親が最も大きな影響を持つています。つまり、この調査結果には、小中学生の親の世代の現実が現れているのです。女性についての結果は、子どもから見た、主に母親の家事育児や仕事との両立の様子の反映であり、男性についての結果は、父親の仕事や家庭での様子の反映です。具体的には、「女

とは違つており、警察のエリートはほぼ男性であり、かわいいものが好きなのは女性に多いのです。そしてそのような現実を「当たり前で変化しないもの」、「異なるものは、間違いで、変だ」という意識が強くあるのです。実際、6人の中学生の発言やアンケート調査結果からも、14歳の段階で「固定的性別役割分担」意識が形成されていることが分かりました。14歳前後、つまり中学生段階でこの意識があるということは、その前の発達段階で、すでに意識の土台が作られているということです。

この記事は、14歳前後の人たちにも、そして、親世代にも是非読んでほしいです。自省も含めて、「きつい、大変そう」などに偏った印象を、子供が性別役割分担の現状について持つてしまつていることは、好むと好まざるに問わらず「鑑」である親として残念です。先日ある調査で、子育ての分担は男女半分ずつが理想的だが、現実は男1女9との結果が出ていましたが、これか

らは、男女ともに働き方を見直し(ワーク・ライフ・バランス)、お互いにゆとりのある生活をすることによって、子どもからみた「大変感」が和らぎ、彼らがより積極的、かつ柔軟に、男女の役割を選択できるようになることを期待します。

その正体は・・



55号の感想をお寄せ下さい

- ◆QRコードから
- ◆E-mail kouryuukaigi@ka.tnc.ne.jp
- ◆FAX 054-251-5085

いずれかの方法をお願いします。



編集委員

※左から

西岡あおい
デザイナー
利根川初美
川野泰寛
編集長
増渕礼子
大畑結香
村田美千子
アドバイザー
平野雅彦



編集後記

●NHK「中学生日記」の真正面から中学生に向き合い、悩みと一緒に考えていくという番組作りに感心しました。子どもたちは辛い過去を思い出しながらカメラの前に立つこともあるそうで、その真剣勝負ぶりに脱帽です。 (西岡あおい)

●デザイン担当として編集会議から同席し、時間をかけて丁寧に内容を作っていく過程を見ることができました。アンケートや座談会で14歳と接し、環境を作る大人の責任についても考えるきっかけになりました。 (デザイナー・利根川初美)

●伝達には困難がつきまといます。しかし、身近で具体的なものを例にすれば、少しは容易になるものです。皆様も、今号のように現代社会の中に存在するものから男女共同参画を一度考えてみてはいかがでしょうか。 (川野泰寛)

●中学生へのアンケートや座談会。生まれて十数年で、既にその人の価値観の「核」ができていることを改めて感じました。次世代へ「男女共同参画」のバトンをつないでいくためには、しなやかな価値観をもつ大人がもっと増えないと。

(編集長・増渕礼子)

●55号では思春期で揺れる中学生が、真剣に「平等とは何か」について考えてくれました。私自身大学生という立場ではありますが、彼らの一歩先を生きる先輩として負けないように、この問いに日々向き合っていきたいと思います。 (大畑結香)

●成長していくと、なんとなく覚えている言葉が増えていきます。中学生に説明をしようとすると、知識の曖昧なことに気づかれます。「男女共同参画」も大人が自分の言葉で語れるようになってこそ浸透していくのでしょうか。 (村田美千子)

●ちまたには、いわゆる「14歳本」があふれている。この号はきっとその後追いではないかと思われるだろう。だが違う。それは「これまでの総括」であり、次代の男女共同参画社会に向けての「のりしろ」である。 (アドバイザー・平野雅彦)



ねっとわあく

2009/10/1 Vol.55

発行日／平成21年10月1日

監修／静岡県男女共同参画センター

〒422-8063 静岡市駿河区馬渕1丁目17-1

企画・編集・発行／あざれあ交流会議グループ

TEL／054-250-8147 FAX／054-251-5085

デザイン・823design 利根川初美